

成年向

18



恋のまほろ  
で  
PON!!!  
misty isle

"KOI-no-MAHO"de PON!!



こんにちは。そいあらようじです。  
今回は「ゼロの使い魔」ルイズ&ティファニア中心本です。  
お楽しみいただけたら幸いです。

今回はこの二人の出番はあいませぬ(汗



サイト……

サイトを  
探したら  
迷っちゃったわ

サイト……

……

ルイズ……  
サイト!

おめ……  
サイト……

よかった

そこにいたのね  
サイト……

!!

サイト  
……?

はっ!

ダメ…  
サイト…っ

ちゃは

わかって  
るって  
3ヶ月も経たな

スーッ

んん…

赤ちゃん…  
いるから…

ひゅっ…

ふっ

んん…

んんんんんん

はっ

優しく  
あるから  
…なの?

いいだろ  
ここなら誰も  
こないって

んんん

もうじゃ  
なこ…

んん—っ!

んんん

サント...

サント...

サント...

サント...

サント...

サント...

は

初めての時  
みたいに...

サント...

サント...

サント...



う…嘘

これって  
つまり

ルイズが  
サイトの  
赤ちゃんを…

妊娠してる  
っことこ——っ!

わあ…

おちんちん  
舐めてる…っ

これ…きつと  
Hなことだわ

ルイズ：  
あんなに  
上気した顔…

タイトの  
おちんちん

そんなに  
美味しいの…？

エなこ  
もっともっ  
見たくなってる…！

体の興が急に  
熱く…なってる

え…っ  
うん…ん…





ルイズ…お尻  
こっちに向けて

う…うん

ルイズの  
綺麗なおまんこ  
びしょびしょ…

あれ…  
お漏らしじゃ  
ないわよね…?

あ…う…

二人とも  
一心不乱に  
お互いのを…っ

きつと…とつても  
気持ちいいんだわ



ちやろ

んあ

ちやろ

ちやろ

私もルイズ  
みたいだ

したい...

ちやろ

サイトと  
Hなこと  
したい...

ちやろ

ちやろ

...st

ちやろ

あは

サイトの

赤ちゃんか  
欲しい...!!

ちやろ

ちやろ

あは

ちやろ

ちやろ

ちやろ

ちやろ



おはよう!

うお!

おは!

おは!

おはよう!

おはよう!

おはよう!

おは!

おは!

おは!



早く...

サイト専用の  
ルイズまんこに  
おちんぼ挿れこえ♥

お...おぎッ

ルイズ...!  
俺もう  
チンポ限界っ

やりたい...

ルイズまんここ  
気持ちよく  
なりたい...!

ぐちゅぐちゅの  
ところろに  
なりたいのあ♥

うん...する♥

一緒に  
子供の名前  
考之ような!

ルイズ

ルイズ!

結婚しような  
ルイズ!!

うん...今度  
ちいねえさまにも  
相談...するの♥

は...

ミ...ミ...ミ...

ルイズの膣内  
よすぎてもう  
射精しそうッ

はぁ

中は...だめ!

赤ちゃん...  
いるからあ♡

んなこと  
言ったっこッ

ズッ

ほわん

ほわん

ほわん

ズッ

お前の子宮の  
入り口が

チンポの先に  
吸い付いて  
くるんだよッ

ズッ

ズッ

あ...あ...あ...  
あ...あ...あ...  
あ...あ...あ...

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



んん…

は…

は…

は…

は…

んん…

んん…

は…あ

は…!

は…!

か

うづな  
テファには

ちよっと  
刺激が強すぎた  
みたいだなあ

教えて  
欲しいか?

…テファ

は…

は…

んん…

次はテファに  
子作りのしかたを  
教えてやろうと  
思ってたけど

な何よー!

せっかくだから  
テファに見せて  
やろーぜ!

おんご...

こんな小さな  
入りの興味

だこさ

なあ  
ルイズ

やッ  
やだあ!!

ばっ

二人の  
赤ちゃんが...

サイトの  
赤ちゃんの素が  
あふれこる...

ん...

いいなあ

やめてッ  
他人のアソコを  
広げこじろじろ  
見ないで...

テフア...

.....

ほろ  
好きに  
ちゅばちゅば  
していいぜ?

赤ちゃんの素  
もっこ  
飲みたいか?

ちゅ...  
何やっこのおー!

何やっこのおー!

ううん...

んん

び

おおー

やっぱ  
テフアの乳  
あげえ...

気持ちいい...

んん

フ...

は...

は...

は...

んん

んん

フ...

アッ...

やだ  
やめ  
ね...

んん





なによー！  
私だっこ  
それくらいつ

ルイス！



うっは…  
あげ之乳圧  
ニツァのデカ乳  
ツィンツィン



ニツァ  
子供を作るには  
これだけじゃ  
まだ足りないわ

あ…♡

サイト…私とセックスあるの？

私にも赤ちゃんくれるの…？

は…

三ノ木

三ノ木

ダメ…っ

ちよ…このバカ犬！何発情してるのよ！

あ…アంతタは私だけの使い魔なんだから…っ

私以外の女の子におちんちん入れちゃダメ！！

あ…

あ…あ…あ…

三ノ木

あっげ  
気持ちいいよ  
テファア...

俺 テファアと  
子作りしてるッ  
セックスト

妊娠  
させたい...

テファアの  
ミルク  
飲みたいッ

あ...  
ちゅら...

あ...  
ちゅら...  
ちゅら...  
ちゅら...

あ...  
ちゅら...  
ちゅら...  
ちゅら...

あ...  
ちゅら...  
ちゅら...  
ちゅら...



ち4、3P)

な(3)ろー

んは  
は  
は

!!

ん

は

ルイズ!?

ち4

ん

ティファニア  
ずるい...  
そんな可愛い顔で  
きもちよさそうに  
されたら私...っ

ん

は

あ  
あ  
あ

キミは  
ティファニア  
種は  
いかに  
いい

ん

ティファ  
イクぞ...!

膈内に  
射精するぞッ

ん

ん

なは  
して  
えん

ん

ルイズと仲良く  
俺の子供を  
孕ませちゃうぞ!!

ん

ん



ははは

ははは

あははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

やれやれ

相変わらず今日も  
タイトの周りは  
騒がしいな

あんだねえ！

人前でお腹出して  
タイトに触らせるの  
やめなさいよ!!

えーだって

赤ちゃんの成長が  
分かってきたのが  
嬉しいんだもの♡

それに  
お腹を出してるのは  
ルイズも一緒じゃない

べ別に  
出したくて出してる  
わけじゃないわ!

制服のミヤツが  
お腹に合わなく  
なってきただけよ!



まあまあ

二人とも  
ケンカはやめて  
仲良く...  
*おんねん*

アంతタが見境無く  
種付けまくった  
せいじょーが——ッ!!!

...じこ

いや種付けって  
言ったのあか  
ゴキ  
FON.

●ここからは、後日談的イラストコーナーです。  
HR分濃いめなのでご注意下さい。(笑)



「やあ…サイト! いや~ティファニア嬢の母乳は  
この上ない美味だよ。まさに天使のミルクだ!」  
「サイト…君がティファニア嬢を  
妊娠させたと聞いた時はいたく嫉妬したが  
彼女の母乳欲しさに水精霊騎士隊への  
入隊希望者がこうして殺到してるんだ。  
まさに彼女は我々騎士隊の女神…  
いや救世主様だよ!」

「ありがとうサイト。  
みんな私の母乳を美味しいって  
言ってくれるの。嬉しいわ。  
あ…もちろん片方のおっぱいは  
サイト専用だから安心してね♥」  
「うんうん、よかった。  
俺も頑張ってアイデアをひねり出した  
甲斐が…イテテッ!?!」

「サ~イト~お~~~~♪」  
「ル、ルイズ! 違うんだ、俺はテファが  
みんなの役に立ちたいって相談を受けたからっ」  
「だ…だだ、だからって学院の中庭で  
母乳を売らせるなんてありえないわよ、このド変態犬!!!」



「まあ…そう怒るなって」  
「だって、最近サイトったらティファニアのことばかりで、私のこと全然構ってくれないんじゃもん…」  
「仕方がないだろ、出産前でもないのにティファの母乳があんなに出るようになるとは思わなかったんだからさ」

「私だって…もう臨月だからおっぱいだって出るもん」  
「あ、本当だ。飲ませてくれよ、ルイズの初搾りミルク」  
「し、仕方がないわね…ほら…」


「ん…ルイズの母乳、苺ミルクの味がする」  
「サイト…私のおっぱい、ティファニアより美味しい？」  
「う～ん、それぞれの味わいがあって、どちらも比べられないよ」  
「何よ…あの子より美味しいって言ってくれなきゃもう飲ませてあげないんだから」  
「今は、ルイズが俺のために出してくれた母乳がこの世で一番美味しいよ」  
「なッ、ち、違うもん…赤ちゃんのためだもん…別にサイトなんかのためじゃ…あんツ♡」

「サイトお、サイトおっ」  
「ルイズ、すっかりアナルセックスも慣れちゃったよな」  
「だって、私が身重になってもサイトがおちんちん入れたがるから…っ」  
「俺は、ルイズがエッチなそうしてるから付き合ってるだけだぞ」  
「嘘…私してない、おちんちん欲しそうになんてしてない…んああ♥」

「……」

「ルイズ、俺のルイズ…。  
こんなに華奢で小さいのは、抱きしめたら腕の中に収まっちゃうのに  
ルイズの中には俺の子供がいる…ルイズの子宮からもうすぐ産まれる」  
「うん、もうすぐ生まれちゃう、私ママになっちゃう」  
「子供のためにも、産まれたらちゃんと結婚式挙げような」  
「うん、私、サイトの奥さんになる…ああんっ♥」

「ルイズ…好きだ」  
「やああん♥」  
「好きだ、好きだ、好きだ、ルイズ好きだっ!!」  
「らめ…そんなに言われたら、私、壊れちゃう…赤ちゃん生まれちゃうっ♥」



「んもお…サイトさんったらずるいですよ？  
昼間からミス・ヴァリエールと逢引きして結婚式の約束なんてっ」  
「ジ…シエスタ、ルイズが起きるって」  
「いいんです。私だってサイトさんの赤ちゃんを授からせて  
いただいでるんですから。まあ、正妻はミス・ヴァリエールに  
お譲りするのは仕方ないですけど…  
私は側室兼メイドで構いませんから、これからもずっと  
仕えさせて下さいませ」

「ところでサイトさん、私最近おっぱいがどんどん張ってきて  
おかげでおっぱいに自信が付いちゃいました。  
…まあティファニアさん程ではないですけど」  
「ああ、シエスタの乳、でかくなったよな…俺のチンポ簡単に挟めるし」  
「多分これからもっと大きくなりますから、色々な方法で  
夜のお務めができるようになりますわ♥  
私、側室として、サイトさんが望むことなら何でもします♥」

「正妻の方との夜の生活に  
ご不満がおありの時は、  
いつでも申してくださいませね…旦那様♥」  
「あ、あはは…」

「ひぎいッ!？」

「これが!このチンポが!!ルイズを孕ませたのね!？」

「お、落ち着いて。エレオール姉様」

「カトリア、これがどうして落ち着いていられて!？」

由緒あるラ・ヴァリエール家の娘が、平民上がりの下級貴族の男の子供を妊娠して…しかもその男と結婚したいだなんて!!

ルイズ!全く貴女って娘はどこまで世話を焼かせるの!!」

「でも姉様…サイト殿はこれまでに数多くの武勲を挙げられ、いまや大陸中はその名を響かせている英雄ですわ。

家柄という点をのぞけば、ルイズの夫として

これ以上ふさわしい殿方はおられないかと…。

それに、むしろずっと年上の私たちの方こそまだ子もなく、父様母様をやきもきさせていたところですよ。

ここは素直に、妹の幸せを祝福すべきではないかしら」

「…仕方がないわね。妊娠については不問にしましょう。ただし」

「私たちに、サイト殿の子種をいただけないかしら」

「貴男の遺伝子ならば、まあ問題ないでしょう。相当な絶倫との噂だし」

「私たちずっと独身で、特に姉様はこのままだと行き遅れて子供も作れなくなるって最近とても焦っているの。だから…」

「カトリア!!…まあそういうわけで、私たちを妊娠させたらその時に正式に結婚を認めてあげるわ。せいぜい頑張っただけを務める事ね」

「サイト殿…よろしくお願いしますわ♥」



「いやあ、姫様はどこに行っても本当に人気ですよ。でも今こうして民衆に手を振っている姫様のお腹の中に子供がいて、しかも御車の中で自分の乳を揉みながら尻にチンポを挿れられてるなんて知ったら…国民はどう思うでしょうね？」

「いや…そんなことを仰らないで」

「でも今回の行幸に同行するように命令したのは姫様じゃないですか」

「それは…私の警護を依頼するためです…っ」

「警護のためならどうして俺一人だけを御車に入れたんですか？」

「あ、それは、中が狭いから…あッ」

「車が動き出すと同時に唇を重ねてきたのは姫様ですよ」

「んッ…だって、だって…」

「サイト殿が、恋しかったんですもの」

「あん！」

「ははッ、車が揺れるたびに姫様の肛門が締まりますよ」

「サイト殿…私、切ないです…お願い、突いて…っ」

「姫様。セックスに没頭してる場合じゃないでしょう。

ほら、もっと窓側に身をせり出さないと外からお顔が見えませんよ」

「そんな…ダメです、見えてしまいます…っ」

「胸から手を離したらダメですよ。ちゃんと揉み続けて、そろそろ尻の中に射精しますよ…<…、姫様…ッ!!!」

「あ…ああ、ああああ…あは…ッ♡」

「ははは、自分を慕ってくれる群衆の面前でイっちゃうなんて、どこまで淫乱な姫様なんだろうなあ」

「ああ…姫様のポテ腹でチンポ擦れて…気持ちいいッ」

「ふふふっ。それならこれはどうです？」

「うあ…ッ!乳首舐められるのなんて、初めて…だッ」

「昼間さんさん私を弄んだ、お返しですわ♥」

「ひ、姫様。どうしてこんなに手慣れてるんです…？」

「いつの世も王族の女というものは政治の道具…」

「いつ他国に嫁がせられても、嫁いだ男を満足させられるように  
幼い頃から性戯の手ほどきを受けるのは当然のことですわ。」

「実際に奉仕するのは2人目ですけど…」

「こんなお腹にされたのはサイト殿、貴男が初めてです」

「姫様…」

「いや…今はアンリエッタとお呼びになって…サイト♥」

「アンリエッタ…最高だよ、君の体…」

「ウェールズが惚れたのもわかるっ」

「あはあ、嬉しい♥…ご褒美ですわ」

「うがッ…おあッ、尻に指…ッ!？」

「あら、前立腺は初めてですね。気持ちいいでしょう♥」

「今夜は貴男に孕まされたこの躰を使って、めくるめく快楽を  
与えて差し上げますわ、サイト♥」

ページが余ったのでナギ様。  
かななぎ本作りたい。



作者様のご回復と  
連載再開を祈ります。  
こんな絵でアシですが。

## あとがき

最後までお読みいただきありがとうございました。  
通算3冊目のゼロ魔本です。今回は念願のティファニア中心本ってことで、  
やはりつるぺたと爆乳のハーモニーは最強だ～。

内容のほうは今回もまたアシな感じで本当にすみません。…謝ってもやめませんが。  
まあ、男ならば一度は  
「あ…あんに飲ませるために母乳が出るようになったんじゃないんだからねっ」  
と釘ボイスでルイズにツンデしられることを夢見るものですよね。たぶん。きっと。

本編の方も佳境に入ってきて展開が楽しみです。  
アニメは4期あるのかなあ…期待したいですが…今度こそ…。

ここで仕事のお知らせなど。  
ついこの間雑誌連載が終了した漫画「ちえり×ちえり」の②巻が  
来年の春頃に角川さんから発売予定です。  
書店で見かけましたら、なにとそよろしくお願いします。

今年は仕事の方が忙しくて  
例年と比べて同人誌の製作ペースもだいぶ少なくなりましたが  
それなりに実りのある1年でした。  
来年は同人でも仕事でもまた違った新しいことができればいなーと思っています。  
同人や仕事の最新情報はホームページで随時公開してます。

それではまた次回の新刊でお会いしましょう～。

2008年 12月  
そりむらようじ





# 恋のマホウで PON!!

2008年 12月 30日 初版発行

発行サークル Misty Isle  
発行責任者 そりむらようじ

E-Mail [sorimura@mistyisle.net](mailto:sorimura@mistyisle.net)  
URL <http://mistyisle.net/>

印刷 PICO

■無断転載・複製・アップロード禁止■  
■18歳未満の方は購入できません■



The Familiar of "ZERO" fanbook  
for adult only  
All comics & illustrations by Yoji Sorimura  
2008 Winter Edition

